

学報 NITTDAI

スポーツ文化の風を発信する

26
2010 特別号



新生日体大

特集■新執行部は語る

～改革にかける思い、その素顔を紹介特集

学長 副学長メッセージ——1

力強い連携のもと、新生日体大が歩みだした——3

体育学部長 体育学科長 健康学科長 武道学科長 社会体育学科長
短期大学部長 体育科長 幼児教育保育科長(兼専攻科保育専攻科長)
大学院研究科長 体育専攻科長 教養・教職科長

<附置機関長>

アドミッションセンター長 キャリア支援センター長

スポーツ局長 図書館長 体育研究所長

スポーツ・トレーニングセンター長 健康管理センター長 寮監長

体育・スポーツを核に、 新たな価値の創造を

第11代学長

谷釜 了正
たにがま りょうしょう

グローバル化、情報化が急速に進み、社会の有り様が大きく変化してきました。わが国においては、少子高齢化、雇用等、喫緊の課題が山積しています。このような時代に日体大は何を為すべきか。学長就任にあたり、その運営に非常に重い責任を感じております。

本学は120年近くにわたり、わが国の体育・スポーツの普及、国民の健康増進、さらにはトップアスリートの養成に努めてまいりました。この使命はいささかも変わるものではありませんが、一方で社会の変化に対応した新たな取り組みも必要になっています。本学の教育・研究に新たな価値を創造し、社会や学生のニーズに応えていくことが、私に課せられた課題であると考えています。

例えば、栄養管理、柔道整復や鍼灸等、スポーツ周辺領域の知識を備えた指導者・トレーナーの育成など、学生の専門性を高めていくことも一つの方向性でしょう。あるいは、青年海外協力隊等に積極的に派遣し、国際感覚を磨いていくことも重要です。学生のキャリア形成にとって有益となるばかりでなく、社会貢献の視点からも、本学の存在感を増す取り組みとなるはずです。

そのためにも、学生諸君には、基礎力の向上に努めていただきたいと思います。読む、書く、話すといったコミュニケーション能力、情報活用能力等は、社会で活躍する上での基盤となるものです。東京・世田谷キャンパス再開発も着々と進行し、図書館やPCルームをはじめ、諸施設がいっそう充実しました。ぜひ積極的に活用し、自己啓発に取り組んでください。

新しい日体大像を具体化していくためには、教職員、卒業生、さらには地域社会も含めた連携を強化していくことが不可欠です。中でも、次代を担う若い教職員と議論を深めることは重要であり、そのための改革フォーラムも構想しています。皆様のご支援、ご協力をお願いいたします。

体育教育が目指すものは、健康という「幸せ」を運ぶ人材の育成です。閉塞感漂う時代に、どうしたら人の「いのち」を輝かせることができるか。未来社会で、日体大を巣立った若者が主導的役割を果たせるよう努力してまいります。

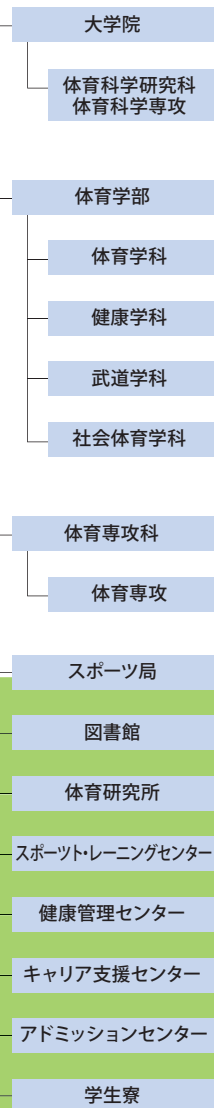
●Profile 教授 体育史研究室

1948年生まれ。石川県出身。1972年、日本体育大学体育学部体育学科卒業。東京教育大学大学院体育学研究科修士課程（修了）。博士（体育科学、日本体育大学）学長室長、体育学部長等を経て学長に就任。日本オリンピック・アカデミー理事、スポーツ史学会理事、日本スポーツ運動学会理事、トップアスリート養成校基本構想懇談会委員等を歴任。

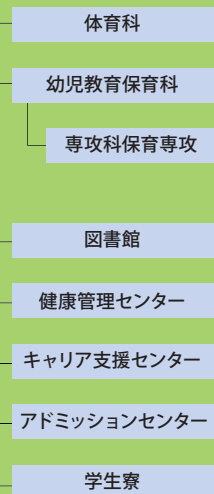
日体大在学中はバスケットボールに親しむ。モットーは「和顔愛語」（いつも穏やかで、優しい言葉をかけることを忘れない）。

日本体育大学
日本体育大学女子短期大学部
組織図

日本体育大学



日本体育大学女子短期大学部



(教学・学生生活担当)

副学長

瀧澤 康二
たきざわ こうじ

母校日体大の
発展のために



就任にあたって

志半ばで病に倒れ、大役の辞任を余儀なくされた伊藤元学長の下で仰せ付かっていた副学長職を再度拝命することになり複雑な心境ですが、改めてその職責の大きさを実感しています。定年を間近に控える私こと、この期に及んでは、お世話になった母校「日体大」の未来永劫の発展のために最後の力を振り絞って谷釜学長を支える所存です。皆様のご協力をお願い致します。

学生に望むこと

日体大は、英文表記で理解できるように「スポーツを科学する大学」です。そこでは、当然のことながら生身のからだを動かすことが前提になります。つまり、自ら選んだスポーツ活動を通して獲得した「身体知」について更に問い直すことが本学の特徴だということです。したがって、日体大生は時間の許す限りスポーツ活動に専念し、そこから生まれる疑問を大切に学生生活を送ってください。

●Profile 教授 体育原理研究室

日本体育大学体育学部体育学科卒業 (S40.2) / ドイツ体育大学ケルン (Deutsche Sporthochschule Koeln) 卒業 (S47.9) / (財)日本オリンピック委員会 評議員・総務委員を歴任 / 現在、国際体操連盟 名誉委員 国際体操連盟副会長 / (財)日本体操協会より功労賞受賞 (H10)、藍綬褒章受章 (H19) 私は、スポーツ (体操) の世界に身を置いて56年になります。その間、選手として、指導者として、そして管理者として過ごし、現在に至っています。そこで学んだ大切なひとつが「専門をもつ」ということでした。

(企画・管理・運営担当)

副学長

阿部 茂明
あべ しげあき

取組みを
実効性あるものに



就任にあたって

大変な時期に、大変な役職に就くことになりましたが、どうぞよろしくお願いいたします。副学長の役割は、学長のサポートです。そのためには学生、保護者、教職員、卒業生の声や状況を的確に把握するとともに、問題・課題整理をして、大学改革の目指す方向の情報を共有化し、一つひとつの取り組みが有効に機能することを心がけたいと考えています。

学生に望むこと

アドミッションポリシーは「社会に貢献する」「社会に寄与する」「社会の原動力となる」人間形成を、各学科、科の求める人物像として示しています。日本体育大学という世界で、最大限に自分に磨きををかけてください。しかし、社会との関わりが分からないと自分の、何を、どこを磨くところなのかが分からないでしょう。携帯やメールではなく、顔と顔を合わせた直接会話能力が今、必要とされています。

●Profile 教授 学校体育研究室

日本体育大学体育学部体育学科卒業 (S46.3) / 公益社団法人日本カヌー連盟理事、全日本学生カヌー連盟副会長・関東学生カヌー連盟会長
日体大在学中は体操部に所属。3年次、第1回体操祭 (現・演技発表会) を開催しましたが、今なお42回まで継続しています。



力強い連携のもと、新生日体大が歩みだした

時代の期待に応えるため、いっそうの改革が求められている。今こそ、オール日体大の力を結集し、新たなヴィジョンを切り拓いていかなければならない。その要となる新しいリーダーたちに、就任にあたっての熱い思い、学生に向けたメッセージを語ってもらった。

学長を支え、
改革・改善に尽力したい

体育学部長

袴田 大蔵



全力で
使命を果たしたい

体育学科長

具志堅 幸司



就任にあたって

体育学科長就任については、身の引き締まる思いです。さらなるトップアスリートの養成、社会に貢献する人材の育成等々、本学の与えられた使命を常に考え、谷釜学長を全力で支えていきたいと思っています。学生諸君がめざすステージで存分に活躍するために、そして大学がより発展するために全力投球で頑張っていく所存です。

学生に望むこと

目標は「具体的に、そしてホンネで!」という言葉があります。大事なことは目標を決めると同時に、いかにして達成できるかということに努力してください。真剣なる努力以外に、これを乗り越える道はありません。この乗り越える力こそ、人生を乗り越える青春の恵みです。皆さんが本学に入学したあの初心を常に忘れず頑張ってください。

●Profile 教授 運動方法(体操競技)研究室

日本体育大学体育学部体育学科卒業(S54.3)／天皇杯受賞(5回)、総理大臣賞受賞(5回)、文部大臣賞受賞(S58)、紫綬褒章受賞(S17)、文部科学省スポーツ功労者顕彰(H20)受賞／ロサンゼルスオリンピック 体操金・銀・銅メダリスト
大学の2年間は怪我のため入院していました。私には天才と呼ばれる選手が持っている恵まれた体格やパワーも、他人の技を見て1回で出来てしまうような器用さなどの才能はまったくありません。しかし、体操という競技をひたむきにコツコツと努力し続ける才能だけはあったようです。ロサンゼルス五輪の金メダルはカメがウサギを追い越した瞬間だったと思います。

就任にあたって

谷釜新学長は学長就任にあたり、学生に「知識基盤社会」をリードできる力を本学で確実に身につけてもらうため、多岐にわたる改革・改善の方策を示されました。学部長として、学長との意思の疎通と連絡を密にしながら、本学の躍進のため谷釜新学長の施政方針を実現すべく、粉骨砕身、協力して任にあたり、学長を支えていきたいと考えております。身に余る重責ですが、全力で職務を遂行してまいります。

学生に望むこと

本学が躍進するということは、学生の頑張りが軸になることは言うまでもないことです。117年にわたる輝かしい歴史は、先輩たちの血と汗と涙の歴史といっても過言ではありません。後に続く我々もこれを超える気概を持つてはいませんか。今は苦労や悩みがあろうとも、機が熟せば必ず努力は実を結びます。

●Profile 教授 武道学研究室

日本体育大学体育学部武道学科卒業(S46.3)／関東学生剣道連盟 常任評議員・日本武道学会東京支部会 理事を歴任／現在、関東学連剣友連合会理事・東京学連剣友連合会理事／剣道教士八段
戦いもしないで勝負を投げだすのは一番つまらない。日体大の学生諸君、最後まであきらめることなく、初期の目的を達成できるまで一緒に進もうではありませんか。

社会体育学科長

石井 隆士

学生のための
改革を推進



武道学科長

山本 洋祐

伝統を守りつつ、
さらに進化を



健康学科長

田中 信行

「健康」を
アクティブに追求



就任にあたって

体育系学部・学科が急増している中、本学は先駆者として、あらゆる面で改善・改革を急速に進めて行く必要があります。学長を先頭に全教職員が一体となり学生を懇切丁寧に教導導き、後押しをしなければなりません。社会体育学科では、さらに実践力を高め、即戦力として活躍出来る人材を送り出して行きます。

学生に望むこと

自らが行動し学ぶ。『受身から行動力』が求められる年代になります。20才を超える事は一人の成人として責任ある行動と適切な判断力を身に付けなければなりません。授業・部活・サークルの場で多くの人間関係を学びタフな人間性を作る。そして最も大切な事は一つの事を深く掘り下げ追求することで向上心・努力の大切さ・忍耐力・喜び・悲しみ・悔しさを学ぶ事が出来るはずです。

●Profile 准教授 運動方法(陸上競技)研究室

日本体育大学体育学部体育学科卒業(S54.3)/日本学生陸上競技連合強化委員等を歴任/関東学生陸上競技連盟指導者功労賞(H6)、日本学生陸上競技連合功労賞(H7)受賞
陸上競技にどっぷり浸かっている毎日です。教え子達が毎日の努力で少しずつ進歩して行く姿を見て嬉しさを感じ、同時に教える事の難しさも感じています。陸上競技に育てて貰う今は恩返しをしている気持ちです。

就任にあたって

武道学科45年の歴史と伝統を守りながらも、時代の潮流に対応できる学科となるよう努力致します。先般、スポーツ棟、武道エリアが完成しました。8武道と伝統芸能コースの学生にとりまして、これまで以上の教育効果、競技成績を望める環境が整ったと言えます。これは中学校武道必修化という社会的要請に叶ったもので、まさに時代の潮流に合致したものです。この素晴らしい環境で教育、競技指導に尽力していきます。

学生に望むこと

柔道の創始者である嘉納先生は、「精力善用 助道相譲 自他共栄」を教育の柱として掲げられています。目標達成に向けて心身の力を有効に活用し努力していく。その過程で生じる対立や衝突を避け、他者のことを尊重し、結果としてともに繁栄していく。嘉納先生のこの言葉を理解し、頑張ってください。

●Profile 准教授 運動方法(柔道)研究室

日本体育大学体育学部武道学科卒業(S57.3)/全日本柔道連盟Jr強化コーチ・男子強化コーチを歴任/現在、全日本柔道連盟女子強化コーチ/スポーツ功労者顕彰(8回)、国際競技大会優秀者等表彰(5回)受賞/ソウルオリンピック 柔道銅メダリスト
私の思い出の試合はソウルオリンピック。準決勝で逆転負けを喫し、金メダルは逃したものの、エッサッサの応援で手にした銅メダルは、金と同じくらい価値のあるメダルになりました。

就任にあたって

日体大にお世話になり10年が経ち、私なりにやるべきことが見えてきました。健康学科は、社会にとっても非常に興味深い場といえます。学生の皆さんが、よりアクティブな健康をしっかりと学べるよう、関係の皆様とこれまで以上に連携できるよう努めて参りたいと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

学生に望むこと

健康になるためには、栄養、休養、運動さらに環境が大切です。健康学科では、これらに関わる内容を全員が学べます。加えて、養護教諭として子ども達への、また高齢の方や障害のある方へのより専門的な支援の方法も学べます。でもこれらは基礎です。ですからゼミだけではなく、入学時から興味のある分野の先生方にアタックしてもらいたいと思います。それをできるのが学生の特権です。

●Profile 准教授 社会福祉学研究室

中京大学体育学部健康教育学科卒業(体育学士)(S57.3)/中京大学大学院体育学研究科(体育方法学)修了(体育学修士)(S59.3)/広島大学大学院総合科学研究科(博士課程後期)修了(博士(学術))(H22.3)/財)日本障害者スポーツ協会強化対策に関する委員会・科学委員会 委員長等を歴任/現在、独立行政法人福祉医療機構 基金事業審査・評価委員会委員、アジア障害者体育・スポーツ学会編集委員会副委員長/日本赤十字社社会有功賞受賞(H15)
学生時代のクラブは、棒高跳に取り組みていましたが、当時あまり認知されていなかったアスレティックリハビリテーションにも興味を持ち、時間があると大学近くの整形外科に勉強に行っていました。悩んだら、「まず一歩」そんな性格です。



学生と社会のニーズにマッチした短期大学部の未来像を



学生
の意欲に
応えたい

幼児教育保育科長 兼
専攻科保育専攻科長

時本
久美子

就任にあたって

「幼児教育保育科」となって5年目を迎えました。まず「保育者」を目指す確固たる目的を持った学生に、一人でも多く入学していただきたいので、広報活動にも力を入れたいと思います。入学時には理解していなかった「保育者」への道が、少しずつ見えてくると、学生に真剣な表情が現れてきます。このことを期待し、幼児教育保育科所属の教員は学生との対話を重視し、より充実した学生生活を送れるよう支援したいと思います。

学生に望むこと

大学も短大も含めて日体大の学生には、まず元気に「挨拶」ができる人間になってほしいと思います。保育者養成の立場で言えば、子どもの目を見て笑顔で「挨拶」できる保育者、元気に一緒に遊べる保育者を育てたい。将来父親や母親になる学生には、子どものお手本になれる生活習慣を身に付けていただきたいです。

●Profile 教授 幼児教育保育科IV幼児体育研究室

日本体育大学女子短期大学保育科卒業(S46.3)／現在、日本私立短期大学協会 体育大会実行委員／学校法人慈光学園銀の鈴幼稚園理事・評議員／社会福祉法人世田谷共育舎用賀なのはな保育園理事／社会福祉法人にじのいえむぎのご保育園理事
仕事をする上のモットーは、役割を果たす責任、謙虚さを大切にすること。座右の銘としては、中学・高校時代に学んだ「捨我精進」の精神を今でも日々心がけています。趣味は、小物を作ることと柴犬の世話です。



教員一丸となった
取り組みを

体育科長

久保
健

就任にあたって

2010年度新カリキュラムの要点は、初年度教育(基礎教養ゼミナールⅠ・Ⅱ、体育スポーツ科学入門)をH.R.を単位に構成して専任教員が全身体制で担当すること、中学校教員免許に関わる専門科目を充実させたこと、社会貢献やキャリア関連の実習を強化したことなどです。それが実効を発揮できるように、連絡・調整、まとめ役を果たしたいと考えています。

学生に望むこと

2年間の短大生活ははととも短いので、勉学についてもクラブ・サークル活動についてもキャリア活動についても、卒業までの時間の流れを見通して計画的に取り組んで欲しいと思います。「短大」のメリットを活かし、先輩方の勉学・就職・進学などに学びつつ、希望と誇りを持って学生生活にいきそんでください。

●Profile 教授 教養等II教職研究室

東京教育大学体育学部体育学科卒業(S49.3)／東京教育大学大学院体育学研究科修士課程体育史専攻修了(体育学修士取得)(S52.3)／日本体育学会評議員・代議員を歴任／現在、日本体育科教育学会副会長
1950年生まれ、「団塊の世代」の尻尾にあたります。専門は保健体育科教育法で、「何でも少しずつなら知っている」のが特徴です。趣味は読書、体育関係はもちろん、コミックから哲学書までの乱読・雑読です。



更なる教育
内容の充実を

短期大学部長

坂井
元

就任にあたって

第二期工事も竣工し、充実した教育環境が整いつつあります。今年度からは新カリキュラム(2010カリ)が導入され、本学の特色を生かし、より充実した授業が行われている状況にあります。中学校教諭、スポーツ指導員、幼稚園教諭、保育士等の専門職資格の取得を目指している学生が自信を持って専門職として社会で活躍して行けるよう、更なる教育内容の見直しを進めて行きたいと思います。

学生に望むこと

日本体育大学には、トップアスリートとして世界の舞台で活躍したり、教育や福祉の専門職として学校、専門機関、福祉施設等の現場で活躍し、多くの実績を積み重ねてきた教員が多く存在します。担当教員と積極的にコミュニケーションを図り、多くのことを吸収して充実した学生生活送ってください。

●Profile 教授 幼児教育保育科IV保育専門研究室

明治学院大学社会学部社会福祉学科 卒業(S43.3)／東京都杉並区障害者福祉推進委員会副委員長、計画部会長を歴任／現在、神奈川県秦野市社会福祉協議会苦情解決委員会委員長／神奈川県横浜市児童福祉審議会児童部会委員
「自己覚知」 簡単に言うと自分自身を知ることです。自分がどの程度の能力を持ち、物事を判断するときにはどのような傾向になりやすいかを知っていることが教育や、福祉の専門家にとっては必要なことです。

教員養成、研究体制の充実に注力したい



大学院研究科長

たかはし たけお
高橋 健夫

次年度より、博士前期課程の「体育科学コース」に、高度な実践力を備えたスーパーコーチャー、スーパーティーチャーの育成を目指す「コーチング学系」と「スポーツ教育・健康教育学系」が新設されます。わが国の大学院教育では初の試みです。多くの学生が大学院に進学し、体育やスポーツを学ぶ面白さや奥深さを実感して欲しいと思います。

●Profile 教授 教職教育Ⅲ研究室

東京教育大学体育学部体育学科卒業(S41.3)／東京教育大学大学院体育学研究科修士課程修了(S44.3)／日本体育学会理事長を歴任、日本スポーツ教育学会会長／現在、(財)日本学校体育研究連合会副会長



体育専攻科長

ほんま けいじ
本間 啓二

体育専攻科では、1年間で中学・高等学校保健体育教員の専修免許を取得することができます。豊富な教職体験の場を用意するなど、これからも指導と支援の充実に努めていきたいと思っています。日体大生は教育現場の評価も高く、うれしい限りです。教員を本気で目指す学生は、どうぞ教職教育Ⅲ研究室を訪ねてください。

●Profile 教授 教職教育Ⅲ研究室

日本体育大学体育学部体育学科卒業(S48.3)／東京都高等学校保健体育研究会 研究局長等を歴任／現在、日本キャリア教育学会倫理委員会 委員長／日本進路指導協会賞(H20)



教養・教職科長

おさかべ ひさし
刑部 久

教養・教職科の使命の一つは、学生一人ひとりが、学ぶ楽しさを体得しつつ、幅広い教養や技能を身につけ、近い将来「大卒社会人」と呼ばれるにふさわしい知的能力が得られるよう啓発、助長することです。現代社会の要請に応え、同時に変わらぬ「真理」を求めて、日体大生を豊かな人生へと導く《道標》として機能していきたいと考えています。

●Profile 教授 人文科学研究室

早稲田大学第一文学部日本文学専攻卒業(S57.3)／早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻博士前期課程修了(文学修士)(S60.3)／早稲田大学大学院文学研究科日本文学専攻博士後期課程単位取得満期退学(S63.3)／全国大学国語国文学会編集委員、日本文学協会委員等を歴任

きめ細かく、学生の目線に立った支援を



アドミッションセンター長

あだち こうじ
荻 浩三

日体大で見つけよう、
わたしが
いちばん輝く未来

これまで以上に、進学相談会やオープンキャンパスなどを通じて多くの皆さんに直接、日体大の魅力を伝えていきたいと考えています。そのためにまず、教職員挙げて積極的に高校生のもとに出掛けていきたいと思っています。また、全国の同窓と緊密な連携を図りながら、広く優れた人材を本学に誘えるように努めてまいります。「理想の私」に向かって第一歩を、日体大から踏み出してみませんか。

●Profile 准教授 体育史研究室

日本体育大学体育学部体育学科卒業(H3.3)／日本体育大学大学院体育学研究科体育学専攻修了 修士(体育学)(H5.3)／現在、日本運動・スポーツ科学学会理事



キャリア支援センター長

つつい たかもり
筒井 崇護

みなさんの
「将来の目標」が
達成できる
お手伝いがしたい

昨今の経済状況、また学生の志望の多様化により、いっそうきめ細かい支援が必要であると感じています。日体大生は、スポーツを通じて培った人間力、行動力がアドバンテージであり、それはまさに今の社会が求める能力に他なりません。どうか、自信を持って就職活動に臨んでください。学生一人ひとりの強みを活かし、希望通りの進路が実現できるようサポートしていきたいと思っています。

●Profile 准教授 運動方法(ソフト・野球)研究室

関西学院大学法学部法律学科卒業(S55.3)／財団法人日本オリンピック委員会 強化コーチングスタッフ等を歴任／ソウルオリンピック 野球銀メダリスト


体育研究所長
西條 修光

本学の強みを生かした「さすが」と言われるような研究を、所を

●Profile 教授 体育心理研究室

日本体育大学体育学部体育学科卒業 (S43.3) / JOCスポーツ医科学情報委員会・スポーツ医科学部会 班員等を歴任 / テニス学会奨励賞 (H12) 中国学校体育科学大会一等賞 (H14) 受賞


スポーツ・トレーニングセンター長
平沼 憲治

競技力向上のために、役立つ施設・サービスと情報を提供していきたい

●Profile 教授 スポーツ医学研究室

産業医科大学医学部卒業 学士 (医学) (S60.3) / 産業医科大学 博士 (医学) (H7.3) / 現在、Jリーグ横浜F.マリノス メディカルアドバイザー、Xリーグ富士通アメリカンフットボール部チームドクター / 第9回秩父宮記念スポーツ医科学賞・奨励賞・受賞 (H18)

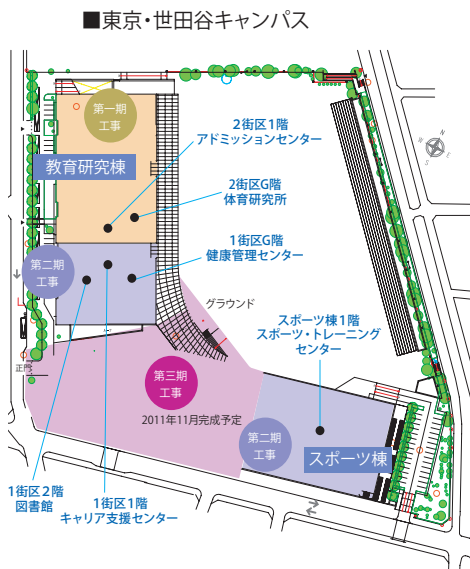

スポーツ局長
森田 淳悟

国内外トップクラスの選手たちを柱にスポーツ王国日体大を目指します

●Profile 教授 運動方法 (バレーボール) 研究室

日本体育大学体育学部体育学科卒業 (S45.3) / 文部省スポーツ功労賞 (2回)、内閣総理大臣銀杯 (S47) 受賞 / バレーボール国際殿堂入り (H15) / ミュンヘンオリンピックバレーボール金メダリスト

学生生活、競技力向上を積極的にサポートしていきたい


横浜・健志台キャンパス

図書館長
秋山 庵然

Come on in! 新キャンパスのど真ん中に知の宝庫

●Profile 教授 外国語研究室

明治学院大学文学部英文学科卒業 (S45.3) / 明治学院大学大学院文学研究科修士課程英文学専攻修了 (文学修士) (S47.3) / 現在、文部科学省教科用図書検定調査審議会委員 (外国語部会長) (H15-)・同審議会総括部会委員 (H20-)


健康管理センター長
大野 誠

薬物、タバコのない健全でクリーンなキャンパスを!

●Profile 教授 スポーツ医学研究室

東京慈恵会医科大学医学部卒業 (S50.3) / 米国カリフォルニア州立大学 extension school 修了 (S51.3) / 現在、日本体力医学会理事・プロジェクト研究委員会委員長 / 社会文化功労賞受賞 (H12)


寮監長
八木沢 誠

集団生活を通して、社会人としての基礎を身につけてもらいたい

●Profile 准教授 運動方法 (剣道) 研究室

日本体育大学体育学部武道学科卒業 (S59.3) / 日本体育大学大学院体育学研究科修了 (体育学修士) (H2.3) / 日本武道学会会員 剣道教士八段